東京美唄会

第9号
◆発行所◆
〒113 東京都文京区
千駄木3-36-11
センチュリー21
TEL 03-824-0010
◆発行責任者◆
細畑正治

多くの人たちの力で
第5回総会盛大に催される

全会員の約半数
三百名が参加
総会報告　細畑正治

三月三日午後六時、東京美唄会の第五回総会並びに懇親会が、新橋第一ホテルを会場にして、盛大に開催されました。

例年、二月に行われておりましたが、今年は昭和天皇の御大葬がございましたので、急遽三月三日に変更させていただきました。

しかし、それにもかかわらず例をみない程のご出席をいただきました。会員の皆様方が約二四〇名、賛助会員の方々が一一名、地元美唄市からは、市長、商工会議所会頭をはじめ三六名の多数に及び、加えてご来賓の方々も七名の御出席をいただいて、総数は約三〇〇名で、全会員のおよそ半数に達しました。

これも、皆様方のご熱意の賜と、役員並びに幹事一同、喪心よりお礼申し上げる次第でございます。

東京美唄会も既に五回の総会を重ねるに至り、しかも盛会裡に挙行されました陰には、設立以来、何かとお力添えいただきました市長さんをはじめ、市当局の方々や地元商工会議所並びに市議会のお歴々によるご援助も亡記することのできないものでございます。

総会は事務局長の細畑より事務報告及び会計報告が行なわれて、更に平成元年度の事業計画並びに予算案の審議、更に役員改選に伴う新役員の幹事をご提案し、満場一致で可決されました。

又、新しく事務局のお手伝いをしていただくために、前任の有馬さんに代わり、日西昌隆さん（常磐台）のご紹介もさせていただきました。

その後、直ちに懇親会に入って、羽田会長のご挨拶、美唄市長のご挨拶に続き、大槻名誉会長の大音声で乾杯に移り、終始和やかな雰囲気の中で、実り多い親睦のひとときを過ごしました。

ことに、今回は会場イベントが、関係者の方々によっていっそう彩りを添えていただきました。

会場内には、各種の模擬店が趣向を凝らし、皆さんに舌鼓を打たせてその味を満喫していただきました。

これも花柳鳴介師匠の肝煎りで、いつもながらのお力添えにこの場をお借りし厚くお礼申し上げます。

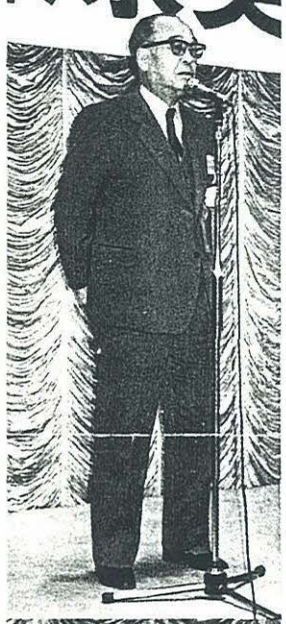
また、前教育長の加藤勝美氏もかけつけて下さり、創設当時の責任者としていかにも感慨深いご様子だったのも印象に残りました。

更に、市の職員の方々や、地元商工会の方々による美唄産品のイベントは、かつてない殺到の中で、見事にその役目を果していただきました。

過去の総会もそれぞれ盛会でありましたが、ことに今回の盛り上がりは大きく印象に残るものでございました。

最後になりましたが、会員の皆様方の会行事への参加をお願いし、ご報告とご挨拶と致します。

乾杯の音頭をとる大槻文平名誉会長


挨拶をする羽田春兎会長

報告をする細畑正治事務局長

会費の振込みは
振込み先は、次のどちらでもかまいません。
▽富士銀行　根津支店
普通口座
二三五―九七三一一五
「東京美唄会　細畑正治」
▽北海道拓殖銀行　小石川支店
普通口座
二三七―二四七〇五三
「東京美唄会　細畑正治」
会費は（年）二千円です。

第5回東京美唄会

次回の総会
平成2年（来年）
2月17日（土）
午後3時より
池袋東方会館

総会スナップ

4年前の会の創立から今日まで、陰になり日向になりして、東京美唄会と美唄市東京事務所を支えてきた柱の一人だった有馬祐憲顧問が、その功績を讃えられて、滝正市長から感謝状を贈呈されました。（写真右上）

地元の協力ぶりも目立ちました。市長以下18名の市職員や、商工会議所、美唄新報社、コンピュータカレッジなどの関係者が、遠路はるばる上京して会を盛り上げてくれました。着用の「美しき唄のまち」の半纏は花柳鳴介さんの寄贈です。（写真左上・左下）

特にこの日のために、中村農協の斎藤睦隆さんら有志が「ふるさとの味をとどける会」を結成して、鳥飯など7種の珍味を持参、瞬く間に品切れになるほど大好評でした。その陰には花柳さんが調理場所を提供したり、地元から出席された三人の市議がみずから包丁を持ったり、多くの人の協力がありました。（写真右下）。

榎本顧問逝く

7月19日、榎本一夫顧問がご逝去されました。

榎本さんは、明治43年生れ、茶志内出身で、三井物産に長くご勤務の後、近未来研究所を主宰しておいでした。

本会には創立当初から関わられ、さまざまなアドバイスを発してくださいました。

残念ながら実現はしませんでしたが、美唄市とボルー市（トルコ共和国）との姉妹都市締結に努力なさるなど、国際的な交友関係と幅広い活動力と生かした様々な提言は、耳新しいものでした。

なお、本紙第3号には、「私はこんな美唄の夢を見る」と題した榎本さんの一文が掲載されています。

市長からのメッセージ
東京美唄会の皆さんへ

新しいまちづくり

滝　正

ご承知のように、美唄市は明治23年（一八九〇年）に沼貝村として誕生以来、ここに1世紀の道程を経て、平成二年に開基一〇〇年を迎えようとしています。いま実りの時を迎え、美唄2世紀の扉に向かって活力と個性豊かなまちづくりに努めています。ここで―「美しき唄のまち」びばい―の現状を簡単に紹介させていただきます。

美唄はいま、第44回「はまなす国体」の卓球競技会場として全市がホスピタリティ精神と―「美しき唄のまち」びばい―らしさで、選手・役員・応援のお客様を迎えようと取り組んでおり、民宿も予定数を確保するなど9月17日の大会にむけて準備は着々と進んでおります。

美唄市西南の田園地帯にあります「宮島沼」には、4月中旬ともなると、北へ帰る渡り鳥たち、とくにマガンの最大かつ最北端寄留地として、約2万羽がしばしの間、ここで翼を休めます。渡り鳥に選ばれた自然環境を市民の財産として、是非とも保全していきたいものと思います。

今年も8月15日、東明公園湖上特設ステージを中心に繰り広げられる予定の、美唄市出身の日本舞踊家花柳鳴介氏による、美唄を芸術文化の発信基地として10年をめどにつづけていくイベント〝VIVA愛フェスタNEXT―ONE〟は、おそらく数千人の観衆を集めると思われます。皆様にも是非一度ご覧いただきたいものです。（編集部注・発行が遅延したため前後しましたが、今年も大盛況裡に終了したそうです。）

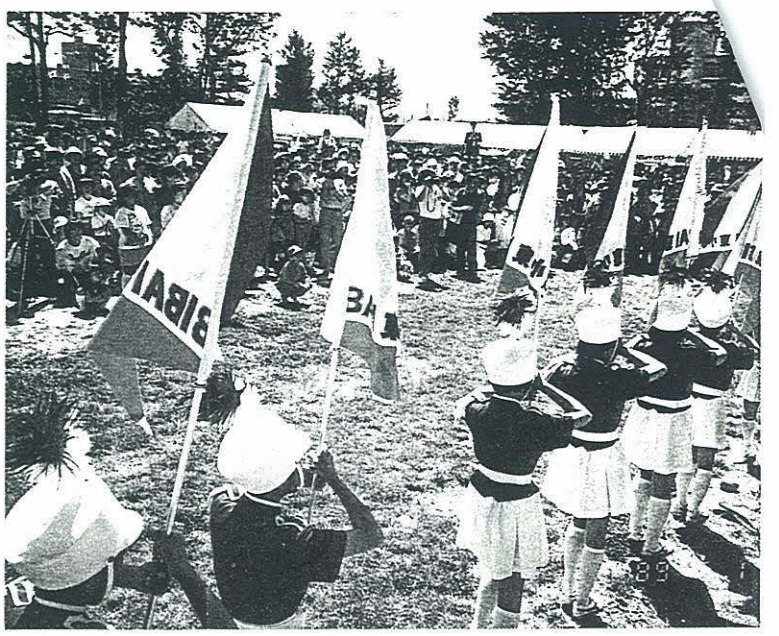
さて、美唄市の基幹産業の振興と地域の活性化を目指す農道離発着場は、昨年から国の調査が行なわれておりますが、6月20日関係者の見守るなか、デモフライトを実施しました。近隣市町村の農産物等を空輸することにより、市場の拡大などに大きな期待が寄せられ、一日も早い着工を関係方面へ強く要請しているところです。首都圏データ処理バックアップセンターの立地をはじめ、情報の集積基地を目指す本市に、来るべき高度情報化社会に応える人材育成を行なう情報処理訓練校「北海道中央コンピュータ・カレッジ」が本年4月に開校しました。時代が要請する情報処理技術者がここから大勢巣立つものと期待しています。

また、市民から広く公募した「吹け　さわやかな緑の風よ　2世紀への出発（たびだち）」のスローガンを基に美唄2世紀への市民参加の開基一〇〇年記念事業も準備が着々と進められています。そのひとつに、市民念願の総合福祉センターの建設事業があります。身体障害者福祉モデル都市美唄にふさわしい、機能と空間をもった本市の福祉活動の拠点施設となるものです。

また「美しき唄のまち」にふさわしいモニュメントとして、「カリヨン」（鐘の塔）の建設も進めようとしています。

以上、新しいまちづくりの取り組みの一端を申し述べ、美唄市からの近況報告とします。東京美唄会の会員の皆様の美唄に寄せる熱い思いを胸に刻みつつ〈びばいのまちづくり〉の推進に全力をあげて取り組んでいきたいと思いますので、今後、より一層のご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

（八九年八月一日記）



6月11日の国体百日前イベントの模様

はまなす国体せまる
美唄は卓球会場
東京美唄会の皆さん、ぜひお越しを

昭和56年美唄市での国体開催種目が決定されて以来、多くの皆さんのご支援、ご協力をいただきながら取り組みを進めてきた「はまなす国体・秋季大会卓球競技会」もいよいよ本番まで間近に迫りました。

昨年4月11日（いい日）に設立し、目を見張るような実行力で国体ムード盛り上げの先頭に立つ「はまなすレディ」の皆さん、卓球の街びばいを創ろうと猛練習、メキメキと上達して、全道各地の卓球少年と交歓試合を行なっている美唄卓研の子供達、日曜大工でプラカード立てを作ってくれた設備協会の皆さんなど、「一人一役、市民が主役」を合言葉に、多くの方々が35年ぶりの国体を成功させようと、積極的な取り組みを展開しています。

東京美唄会の皆さん、この機会にぜひ美唄にお越しのうえ、故郷の発展をご覧になり、試合の応援をして下さい。

日程は次のとおりです。

9月14日　駅前に受付テント開設。選手団ぞくぞくと美唄入り開始。

15・16日　8割方の選手団が美唄入りのため駅前は人並みで溢れます。

17日　札幌で国体秋季大会総合開会式。

夕方からは、市民会館前庭で「選手・監督と美唄市民ふれあいの夕べ」を開催し、北海道の味を満喫していただきます。

18日　三〇〇人を超えるチビッコ合唱団、中学生のブラスバンド、可愛らしいマーチングバンドの演出の中、美唄市卓球協会の開始式、そしていよいよ競技が開始されます。

体育館の外に設けられた接待所では、婦人の皆さんが、揃いのエプロンで、腕によりをかけ、心をこめてブタ汁、新鮮な牛乳のサービスをします。

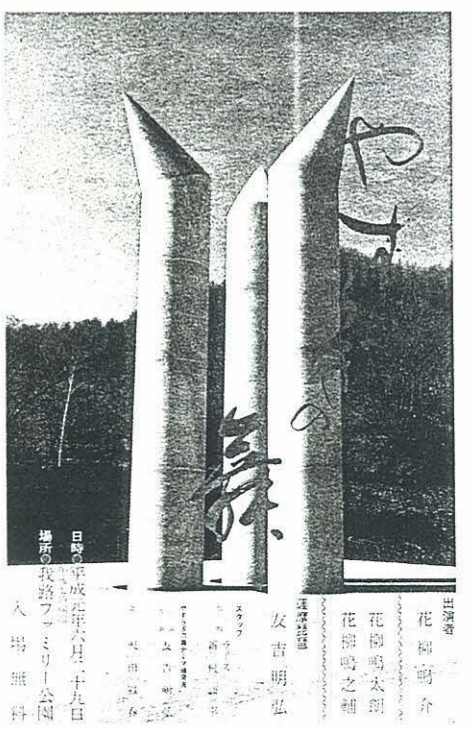
19日～22日　競技と表彰式。

夜は、選手団、視察員の皆さんが、美唄の夜のひと時を楽しみます。

嫋々と粛々と…
花柳鳴介師、舞う

6月29日、我路ファミリー公園で、この炭山の地の果てた人々に捧げる花柳鳴介さんの「やすらぎの舞」が、涙雨のような小雨をついて演じられ、千人近い観衆の心を魅了しました。

これは、当日応援に東京からかけつけた薩摩琵琶の友吉明弘さんの作詞、作曲したテーマ曲に、花柳さんが振り付けしたもので、東美唄に育った花柳さんの深い思い入れから生まれたといいます。



「やすらぎの舞」のポスター

安田侃さんの制作した「炭山（やま）の碑」を舞う場に見立てて、新村訓平さんらの照明が光と闇を演出する中で、薩摩琵琶とシンセサイザーの音色にのり、嫋々粛々と舞いおさめられました。

さあ、ハネ休めに来ないか
観光物産協会がポスターを作成

昨年の5月に発足して、活動を開始した美唄観光物産協会（本紙7号に掲載）が、美唄の新しい観光ポスターを作成しました（左写真）。

日本最北端の寄留地である市内の宮島沼の蒼い空を背景に、高く群れて舞う四十一羽のマガンと、手を結んで飛翔する男女のアウトラインが薄桃色に描かれており、そこに「ハネ休めにおいで。」というコピーと、「BIBAI」「美しき唄のまち」「美唄」の文字があしらわれた瀟洒なポスターです。なお、このコピーは、美唄市出身のコピーライター石本玲子さんの作だそうです。

作成した観光物産協会の担当理事は、次のように語っています。

「観光集積度の低い当市が、美唄を知らないお客様にアプローチすることは非常に難しいのですが、かつて、美唄をあとにした数万人の方達とのつながりは、当市にとって大きな財産であり、応援団です。

東京美唄会の方達へ『美唄を忘れないで欲しい』、『美唄にかかわりのないお友達と共に来美してほしい』、そして『その輪が広がっていけば』という願いを込めて、このポスターが作られました。

来美された方に心も身も骨休みして頂き、リフレッシュして頂ける態勢を完備するよう、私達も努めています。

インテリアにもふさわしいこのポスターを、ご希望の会員には無料でお分けしますので、美唄市東京事務所にご連絡ください。

「ビバイの里プラザ」計画

本欄の「市長からのメッセージ」にもあるように、新しい美唄のまちづくりを目指して、次々と新たな事業が立案・計画されていますが、その一つとして「ピパオイの里プラザ」建設計画が注目されています。

この計画は、市民の異業種交流と、ハスカップ染などの美唄特有の技術の養成の拠点を設置することを目的とするものです。

建物は、平家で約六〇〇㎡、総工費は2億円弱と見込まれています。

その施設の内部は、交流サロン・ミーティングルーム・農産物加工室・染色室・工芸室・多目的室などに分かれ、新たな「産業おこし」や「まちづくり」のための人材を育成する恰好の場になると期待されています。

アサヒバイオ社
工業団地に進出

極超短波による乾燥法で注目されているアサヒバイオ社が、空知中核工業団地に美唄工場を建設し、野菜パウダー（スープ・ケーキ・クッキーなどの食品の素材）の製造を開始することになりました。

同社は、札幌市と生田原町の二箇所に工場を操業させていますが、これを美唄工場に統合させようという計画で、新規に地元から16人の従業員を採用する予定です。

初年度は2億円の出荷を見込んでおり、美唄の新しい業種として、その成功に大きな期待が寄せられています。

第5回総会・資料

1面の総会報告と併せてご一読ください

◆ 次　　第 ◆

開　　会　　（敬称略）

総　　会　　事務局長　細畑正治
昭和63年度事業報告
決算報告
平成元年度事業計画（案）
予　算（案）
役員・任期満了による改選の件（新役員は別紙役員名簿のとおり）

懇　親　会
挨　拶　　会長　羽田春兎
来賓挨拶　　美唄市長　滝正
乾　杯　　名誉会長　大槻文平
懇　談
地元PR
閉会の辞　　美唄市議会議長　林金作

閉　　会

実行委員　本間義幸
〃　中田安隆
〃　畑義克（司会）
〃　及川広夫（〃）

◆ 東京美唄会役員名簿 ◆

<名誉会長>
大槻　文平　日本経営者団体連盟名誉会長
三菱鉱業セメント㈱相談役

<会　長>
羽田　春兎　日本医師会会長

<副会長>
岡田　豊　美ヶ原高原開発㈱顧問
柏原　宏平　サンコーコンサルタント㈱
常任相談役
竹林　省吾　三井石油化学工業㈱社長
都竹　卓郎　日本大学教授

<顧　問>
遠坂　国一　㈶省エネルギーセンター顧問
有馬　祐憲　三井新美唄会世話人
有末　精三　㈳郷共連盟名誉顧問
榎本　一夫　近年未来研究所理事長
大栗　明　元三菱鉱業㈱美唄鉱業所長
岡田　春夫　元衆議院議員
兼坂　隆一　㈶日本文具検査協会会長
佐藤　定雄　佐藤医院長元美唄市立病院長
対馬　孝且　参議院議員
山下　徳夫　専修大学理事長
渡辺　省一　衆議院議員

<事務局長>　細畑　正治　株式会社東京クリエート代表取締役

<幹　事>
飯尾　敦　株式会社博報堂メディア開発部長
大山　智
岡崎登喜男　有限会社岡崎商事代表取締役
岡本　英雄　株式会社美工建築設計事務所代表取締役
加藤　昌雄　一橋学院
九島　秀夫　小野田不動産株式会社
高嶋　亮一　日鉄防蝕株式会社
田嶼　良子　タジマ医院
高橋　哲夫　社団法人　日本造船工業会
東松　良光　株式会社　日鉄技術情報センターコンサルタント
中田　安隆　川崎市役所
能城　迪裕　専修大学経理部長
畑　義克　育英管財株式会社
本間　義幸　株式会社トーカイ建設代表取締役
三浦　武美　朝日生命相互会社関連事業部
水口秀太郎　三鉱物産株式会社取締役機電営業部次長
山口　朋子

<監　事>
菊地　元一　青山学院大学法学部教授
水田　努　厚生省年金局長

市東京事務所長　松尾　昭房
市東京事務所次長　村上　忠雄
市東京事務所所主査　板東　知文

◆ 昭和63年度事業報告 ◆

1．第4回総会の開催
昭和63年2月27日午後3時より新橋第一ホテル弥生・天平の間にて開催。普通会員200名，賛助会員8社、来賓・地元ほか40名出席。
2．会報・7号，8号の発行
3．第2回市長杯争奪ゴルフコンペの開催
4．平成2年美唄市開基100年記念事業への参加準備
5．役員会の開催　　8回開催
6．会員加入状況　　正会員 653名　　賛助会員16社

◆ 昭和63年度決算報告及び元年予算 ◆

収　入

（単位：円）

項　目	内　訳	63年度予算	63年度決算	元年度予算
前年度繰越		752,142	752,142	457,489
総会費	会費1,260,000 祝儀400,00	1,660,000	1,705,000	1,560,000
年会費	普通800,000 賛助330,000	1,130,000	812,000	900,000
補助金	美唄市	300,000	300,000	300,000
雑収入	名簿売上，広告料，利息	300,000	113,327	50,000
合　計		4,142,142	3,682,469	3,267,489

支　出

（単位：円）

項　目	内　訳	63年度予算	63年度決算	元年度予算
総会費		1,500,000	1,518,590	1,560,000
事業費	会報発行費	300,000	331,030	300,000
	名簿作成費	300,000	323,750	
	行事費	300,000	167,720	210,000
総会費	会議費	200,000	187,780	190,000
	通信費	300,000	142,430	160,000
	事務費	500,000	153,680	110,000
開基100年積立金		400,000	400,000	400,000
予備費		342,142		337,489
合　計		4,142,142	3,224,980	3,267,489

3,682,469－3,224,980＝457,489円　銀行預金 418,527円　　現金 38,962円

厳正に監査しました処、上記の通り相違ありません。
監事　菊地元一　印
監事　水田努　印

◆ 平成元年　事業計画（案）◆

1．第5回総会の開催（元年3月3日）
2．会報第9号（元年6月）第10号（元年12月）の発行
3．第3回ゴルフコンペの開催（於平塚富士見CC．元年5月18日）
4．女性会員の集いの開催
5．平成2年美唄開基100年記念事業への参加準備
6．企業振興研究会の開催

◆ 会則の一部改訂 ◆

東京美唄会会則第5条（2）賛助会員の項を次の通り改訂。
美唄市に進出している法人及び美唄に縁りのある法人。

唱市開基一〇〇年に向けて
帰郷ツアーを計画
高齢会員を優先的に

実行委員長　本間　義幸

我々のふるさと美唄が、来年（平成二年）で、沼貝村開村以来、ちょうど一〇〇年になります。

美唄市当局も、諸種の記念事業を企図しており、現在、市当局が中心となりまして、「美唄市開基一〇〇年委員会」を構成して、いろいろな事業準備と取り組んでおります。

東京美唄会でも、是非この意義あるときに当たり、ふるさと美唄を訪れて、地元美唄との交流を深め、いまの美唄を直接見聞して、喜びを分かちあい、地元の激励もかねて「吹け　さわやかな緑の風よ　いま　二世紀への出発」のテーマに応えたいと、三年がかりで準備して参りました。そのために、幹事会の中に、その参加の実行委員会を作り、着々と準備をすすめております。

当会の事務局長も正式に「美唄市開基一〇〇年委員会」の参与として、市長より委嘱も受けておりますし、羽田会長も記念祭典にご出席のご意向であります。

従って、我々実行委員会としてもあと一年後に迫った「ふるさと美唄訪問ツアー」をメイン参加行事として、是非、成功させたく企図しております。

詳細は、まだ幹事会の正式承認もうけておりませんが、一〇〇年記念という意義を考えまして、東京美唄会の高齢会員を中心に五十名くらいのツアーを組み、あまり無理のない旅程により、津軽海峡の海底トンネルを通り、道南を経て、美唄の祭典当日（平成二年九月十日）の記念式典に参加できるよう、基本構想を考えているところであります。

勿論、高齢会員といっても、お一人で参加できる程度のご健康でありますことが必要ですが、旅費のご負担を始どおかけしないで済むようにと、いま実行委員会で智恵をしぼって、その実現に向けて努力しているところであります。

追って詳細は、来年の総会には発表できるかと存じます。皆さんのいっそうのご支援を衷心よりお願い申し上げます。

企業振興研究会の報告

細畑　正治

昨年　会員の中の一部有志の声として、東京美唄会会員の中で、いろいろご自分で事業を経営されている方々の集いをもちたいというご希望がありまして本間幹事から呼かけをしていただきました。

これは、昨年の会報で広く会員に呼かけましたところ、幸い十五名程の方々のお集まりをいただき、事務局長の私も仲間に入れていただいて、銀座の交詢社において、第一回の集まりを行ないました。

種々の意見も出まして、これについても既に会報で経過も報告をしておりますので省略致しますが、その折、是非、この会を続けたいというご希望も多く、また、自由な雰囲気で意見の交換を行ないながら、経営者としての立場から問題点や事業の交流に関する意見、さらには、ふるさと美唄市の産業組織（例えば商工会議所など）との連帯の問題など、話題や要望も多岐にわたりました。

また、美唄の未来像に関することとか、現在の美唄に「今こんなことを望みたい」など、前向きのご意見もありました。

そこで、昨年、この有志の集いを一歩進めて、できれば東京美唄会の事業の一つとして育てたいという念願から、幹事会にはかりました。その結果、幹事会の御賛同を得ましたので、平成元年度から、会の名称も変更しまして、「企業振興研究会」と致しました。近々、第二回目の会合を予定しております。趣旨はいま述べたとおりでありますが、或いは出席の皆さんのご意向によっては、一歩も二歩も突込んだものに発展するかも知れません。

近い内に、会場、開催日時を決めますが、ご希望がありましたら、ハガキにて、東京美唄会事務局宛て、ご一報いただければ、追って詳しい日時をご連絡いたします。

どうぞ、この機会に事業を経営されている方々の会員としての交流の場にご参加下さい。

なお、今後も、この会の世話役幹事は、当面、事務局長の細畑と本間幹事とで担当させていただきます。（細畑正治　記）

事務局の新しい顔

私、このたび2月22日より美唄市東京事務所と東京美唄会のお手伝いをさせていただいております日西昌隆と申します。

前任者の有馬祐憲様のような高邁なる識見、経験のある方の後を継いで、仕事が無事果たせるかどうか、たいへん苦慮しております。

幸いにも、会の各役員さん並びに事務所の方々の多大なるご援助で、ご迷惑をお掛けしながら足手纏いになりながら日々を過ごさせていただいております。

懐かしい望郷の町美唄の為に少しでもお役に立つつもりで頑張りたいと存じますので宜しくお願い申し上げます。

私事ですが、離山は昭和40年6月、山々が緑に冴え、樹々に小鳥囀る風景は、今でも記憶に残っており、常磐台駅のホームから流れる蛍の光に送られ、先輩・同僚・近親・知人が涙で手を振り激励する声で万感胸に迫り、涙をこらえ笑顔で別れました。が、別れた方々もまた汽車同様に会員皆様のご協力、ご支援の程を伏して懇願申し上げる次第でございます。

後、アンリツに昭和61年66歳まで勤め、現役引退後三年間茅屋でぶらぶらしておりました。昨年12月、嫁の弟より三鷹の東京天文台で仕事をしてみてはと話がありましたが、もう年だからと辞退いたしました。

その後間もなく、当会細畑事務局長様より心暖まるお誘いがあり子供たちからも「最後の仕事になると思いますからご奉公は元気な内に」と言われお受けいたした次第でございます。

何分にも不案内、非才でございますが、今後とも有馬様同様に会員皆様のご協力、ご支援の程を伏して懇願申し上げる次第でございます。

新規加入会員（3月～6月）

首都圏在住の美唄出身者・関係者をご存知でしたら、ぜひ入会をお勧め下さい。あるいは、事務局（電話〇三―八二四―〇〇一〇）にご一報下さい。

岸田晴樹さん
札幌市中央区界川3―2―55
（Tel〇一一―五六一―九六九三）

安部毅さん（番町出身）
横浜市旭区白根6―54―5
（Tel〇四五―九五三―七〇九六）

美唄の思い出

田嶋良子氏にきく

今度の総会で新たに幹事に就任した田嶋良子氏の祖父、櫻井良三氏は、明治24年、屯田兵として入植した。

その子息が、皆さんご存じの元美唄市長だった櫻井省吾氏で、田嶋良子氏はその長女として、大正9年、美唄で生まれた。

生家は、いま市に寄贈されて公民館分館として、市民に開放されている。

また、従兄にあたるのが、本紙8号にインタビューが掲載されている元衆議院副議長の岡田春夫氏である。

▼懐かしい思い出

消防の出初式、祭りの神輿など、櫻井の家からにぎやかに出ていったこと。

また母親が、戦前、自宅の倉庫を改造して幼稚園を開設し、その手伝いをしたこと。（ちなみにその第一期生に本会幹事の本間義幸氏がいたという。）

東明閣近くに櫻井家所有の三角山があり、そこに栗拾いに行く途中、汽車の線路脇に落ちている石炭（塊炭）をよく拾ったこと。この塊炭がよく燃え、火力があって暖をとるには最高でした。

▼嫌な思い出

まず、煙突掃除、便所掃除、肥し汲みなど、家の中でいちばん嫌な仕事をやらされたこと。

子供の頃曾祖母が健在だったので、約束事を守らないときつく叱られるという厳しい躾を受けたこと。

家が政治家だったので、反対派の子供達と仲良しになれなかったので、政治家の嫁さんには絶対なりたくないと思ったこと。

岡田の〝兄〟（岡田春夫氏とは兄妹のように育ったので田嶋さんは岡田氏を〝兄〟と呼ぶ）が、社会党の代議士だった時は、櫻井家の出入りが禁じられていたのが、とても悲しいことでした。

▼最近の思い

美唄の町も、今では札幌へはバスが15分毎に、L特急も1時間毎に発着して、とても便利になっています。

来年は開基一〇〇年ですから、これを契機にして、あの三井の炭住街の灯がダイヤモンドの様にキラキラ輝いていたのを、函館本線の汽車の窓から見たものでしたが、あの時以上に、今後の美唄が発展するのを願っております。

（インタビュアー高嶋亮一）

峰光会発足する

峰延・光珠内出身者の集まる「峰光会」（会員数27名）が誕生しました。

4月1日午後6時、第1回の懇親会が催され、16名が出席しました。会長に小田中昭雄さん（峰延出身）を選んだ後、親睦の宴が始まって、延々午後10時半に及びました。席上、滝美唄市長、森川峰延農協組合長の祝電も披露されました。

会では、東幸雄さん（光珠内出身）の編集で「峰光会ニュース」第1号を6月17日付けで発行、親睦の輪を広げようとしています。

峰光会の電話連絡先は、東京六一一―七二一九（小田中）
東京六四二―一三七三（東）

美東12期同期会開く

5月21日に、首都圏に在住している美唄東高12期生の同期会が催されました。一昨年に続く2回目の集まりで、24名が出席する盛会ぶりでした。（写真上）

正午から始まった会は、二次会、三次会と深夜に及び、その間の懐古の談笑は尽きることなく続きました。

たまたま上京中の海老名聰さん（美唄観光物産協会理事）も参加して、美唄市の現状を語り皆の耳を傾けさせました。

美東12期生同期会の電話連絡先は
〇三―七九二―六一六六（阿部）
〇三―八一〇―三八八二（加藤）

編集後記

◆7・8号を担当した東幸雄氏と大山満氏が編集から退かれ、急遽、小生が責任者を仰せつかりました。高嶋亮一幹事の応援を乞うたものの、プロだったお二方の後任を務めるのは、いささか荷が重く、ご覧の通りの体たらくです。

◆発行も1か月以上も遅れて、原稿や資料を提供して下さった方々にご迷惑をお掛けするはめになりましたし、ゴルフ大会など、掲載すべき記事を欠いてしまいました。紙上を借りて重々お詫びいたします。

◆本会のもっとも重要な行事はもちろん総会と懇親会でしょうが、それに参加できない会員にとっては、この会報がほとんど唯一の直接の絆です。どうすれば、会員相互を結ぶ会報を作れるのか、沈思黙考中です。

◆手弁当で走り回っている役員や関係者の努力も、もっとお知らせしようと思う一方で、「東京美唄会は、有名人、知名人だけが主体ではないか」という、総会出欠ハガキに書かれた会員の批判も、傾聴しなければならないと考えております。（加藤）